

厳選みやげ
四国の名産品

今治タオル ストライプ タオルセット (ベージュ)

愛媛県

JTB
感動のそばに、いつも。

商品番号：E-006



瀬戸内海沿岸に位置する愛媛県 今治市は、

日本有数のタオル産地として知られている。国内生産のうち、実に6割以上がここで製造される。温暖な気候と水に恵まれた今治では江戸時代以降、綿織物が盛んに作られるようになった。世界的なタオルの名産地を支えるのが、豊富で良質な水だ。四国の中央部に連なる石鎚山系の天然水は重金属が極めて少なく、硬度成分が低い。この軟水は晒しや染めに適し、ソフトな肌触りや美しい発色に欠かせない。また、昭和30年代までは綿糸や生地は天日干しだったので、比較的雨が少なく、穏やかな気候もタオルを作るのに適していた。

今治でタオルの製造を始めたのは明治27年(1894)、110年以上の歴史がある。大正元年(1912)には、大衆向けのタオルが開発され、大正13年(1924)頃には現在と同じようなジャカード織りのタオルが生産されるようになった。肌触りがよく、吸水性に優れた良質なタオルは、国産ならではの「今治タオル」には、その品質を保証するブランドマークが付いている。

このブランドマークは、四国タオル工業組合による独自の認定基準に合格したものだけが取得できる。吸水性や毛羽落ちなど、チェック項目をすべてクリアした製品にのみ付けられるのだ。

ブランドマークは白、青、赤の3色を用い、空や海、水、太陽といった今治の恵まれた自然と、タオルのやさしさや清潔感を表現。今治タオルプロジェクトに参加していた日本を代表するアートディレクター、佐藤可士和さんがデザインした。「村上パイル」は、伝統の今治タオルを作り続けているメーカー。製造工程を代表取締役社長、村上政嘉さんに説明してもらった。

「現在、タオル製造の工程のほとんどは、機械化されています。織機もコンピュータを導入して、複雑な模様も織れるようになりました。しかし、肝心なところは職人の経験が必要となります」

織機にかかる準備段階で、特に重要な工程は経系の必要な本数、長さ、張力を揃えるための「整経」。大きなドラムに糸を均等に巻き取っていく。職人が機械のそばに付き、糸の調子を注意深く見守る。

「この工程がしっかりしていないと、タオルは織れません」

経系の準備が整ったら織機にかけ、パイル状に織る。タオルの織り上がりはつながったままで、反物のような状態になる。この状態のまま水に晒して、乾燥させる。

次に、自動裁断機にかけて規定の長さに切っていく。最後に、職人がへム(両端)をミシンで縫う。このときに、「今治タオル」のロゴマークも縫い付ける。

柔らかな風合いと、吸水性の良さが特徴である「今治タオル」には、百余年の伝統と確かな技術が織り込まれている。
※今治タオルブランド認定番号：第2015-216号。

メーカー品番	YST04041BE
販売価格(税別)	¥5,000(送料込み)
セット内容	フェイスタオル、バスタオル各1
サイズ	フェイスタオル：約タテ85×ヨコ34cm、バスタオル：約タテ120×ヨコ60cm
素材	綿100%
原産国	日本

Copyright©2021JTB Gift Travel Center